

和仏法律学校講義録

中村, 進午 / 金井, 延 / 秋山, 雅之介 / 塚田, 達二郎 / 若槻, 禮次郎 / 中山, 成太郎

(出版者 / Publisher)

和仏法律學校

(巻 / Volume)

1-18

(開始ページ / Start Page)

1

(終了ページ / End Page)

46

(発行年 / Year)

1902-07-20

（明治三十四年十一月四日第三種郵便物認可 毎月二回）
明治三十五年七月二十日發行

三十五年度 第一學年

和佛法律學校講義錄

第八拾號

和佛法律學校發行



第一學年第十八號目次

民法總則 自第一章(至自二五) 至第三章(至自三三) 法學士 塚田達二郎

民法總則 自第四章(至自四五) 至第六章(至自五三) 法學士 若槻禮次郎

民法物權 自第一章(至自二五) 至第六章(至自三三) 法學士 中山成太郎

國際公法(平時) (自二〇七) 至(自三三三) 法學博士 中村進午

國際公法(局外) (自七五) 至(自七四) 法學士 秋山雅之介

經濟學總論 (自一八) 至(自二八) 法學博士 金井延

雜報 ○卒業證書授與式 ○擔任講師ノ變更 ○自首ノ效力ノ及フ範圍 ○第一年級學年試驗問題續

090
1902
1-1-18

ル人ニ屬スヘキモノトセリ(第七二條法律ニハ定款又ハ寄附行為ヲ以テ指定シタル人トアルヲ以テ定款又ハ寄附行為ニ於テ直接ニ歸屬權利者ヲ定メタル場合ノミニ限ルモノト解釋スル者アルヘント雖モ同條第二項ニ理事カ法人ノ遺產分ヲ爲シ得ヘキコトヲ規定スルニ當リテ定款又ハ寄附行為ヲ以テ歸屬權利者ヲ指定スル方法ヲ定メタル場合ヲ除外シタル趣旨ニ依リテ解釋セハ定款又ハ寄附行為ヲ以テ歸屬權利者ヲ指定セサルモ之ヲ指定スル方法ヲ定メ其方法ニ基キテ定マリタル人モ亦指定シタル人ナリト解釋セサルヘカラス。若シ定款又ハ寄附行為ヲ以テ歸屬權利者ヲ定メス又ハ之ヲ定ムル方法ヲ規定セサルトキハ法人ノ遺產ハ何人ニ歸屬スヘキカ此場合ニ於テハ左ノ三主義アリ

第一ニ國庫ニ歸屬セシムルコト。此主義ハ佛國法ノ採ル所ニシテ解散シタル法人ノ遺產ハ相續人ナキ遺留財產ト同シク無主物ナルヲ以テ之ヲ各人ノ先占ニ任センヨリモ國庫ニ收入セハ各人直チニ先占セントシテ相爭フ弊ヲ防シノミナラス資本ノ分散ヲ避ケ之ヲ必要ノ費途ニ充ナルヲ得ヘントノ理由ニ基

民法總則 私權ノ主體 法人

クモフナリ資本ノ存続ヲ強クシテ保護シ、其ノ利益ヲ公平ナル如ク分配シ、其ノ事業ヲ經營シ、其ノ利益ヲ公平ナル如ク分配シト雖モ決シテ然ラス何トナレハ營利ヲ目的トセザル法人ノ財産ハ素ト公益ニ關スル事項ヲ目的トシ其目的ヲ達スルカ爲メニ醜集シタルモノナルヲ以テ設立者ニ於テ之ヲ取得スヘキコトヲ定メサル以上ハ出費者ハ法人ノ遺產ヲ取得セントスル利慾心ヲ有スルモノト認ムルコトヲ得ス即チ法人ノ財産ヲ取得セントスル意思ナキ者ニ對シ法律ヲ以テ之ヲ設立者ニ還付スヘキ必要ナキノナラス他人ノ權利ヲ侵害セシムル理由ナケレハナリ故ニ此主義ヲ採用セザル得ヘキ財産ヲ一私人ニ歸屬セシムル理由ナケレハナリ故ニ此主義ヲ採用セザル立法例ハ極メテ稀ナリトス例ヘハ普濟西ノ水利組合體ノ解散シタルトキハ其遺產ハ現在ノ組合員ノ有ニ歸ストセルカ如シ、又ハ普濟西ノ水利組合體ノ解散シタルトキハ其第三ノ法人ノ目的ニ類似スル事業ノ爲メ其財産ヲ使用セシムルコトヲ得此主義ヲ細別スレハ(一)法人ノ遺產ハ國庫ニ收入シ國庫ハ之ヲ法人ノ目的ト同一ノ事業又ハ類似ノ目的ニ向ヒテ使用スヘキ義務ヲ有スル主義即チ用途指定ノ財産

トシテ國庫ニ收入スルモノト(二)國庫ニ收入キスシテ法人ノ目的ト類似スル目的ノ爲メニ遺產ヲ使用セシムルコトヲ許可スル主義トアリ獨逸民法ハ前ノ主義ヲ採リ我民法ハ後ノ主義ニ從フ蓋シ國庫ノ會計ニ於テハ收入シタル財産ヲ支出スルハ豫算ノ定ムル所ニ依ラサルヘカラサルカ故ニ獨逸民法ノ主義ニ依レバ徒ラニ手數ヲ増スニ過キスシテ實益ナキヲ以テ此點ニ關シテハ我民法ノ主義ヲ適當ナリト信ス、又ハ普濟西ノ水利組合體ノ解散シタルトキハ其遺產ハ理事カ法人ノ遺產ヲ其目的ニ類似セル目的ニ向ヒテ處分セントセハ主務官廳ノ許可ヲ要スヘキカ故ニ主務官廳ニ於テ其處分ヲ不當ナリト認メタルトキハ之カ許可ヲ與ヘサルコトアルヘク又社團法人ニ在リテハ總會ノ議決ヲ經サルヘカラサルカ故ニ總會ニ於テ之ヲ否決シタルトキハ法定ノ條件ヲ充タヌコトヲ得サルヲ以テ此場合ニ於テハ理事ハ法人ノ遺產ヲ處分スルコトヲ得サルハ論ヲ埃タヌ加之法人ノ理事カ法定ノ手續ニ依リ解散シタル法人ノ遺產ヲ處分スルト否トハ全ク理事ノ任意ナルヲ以テ時トシテハ理事ハ其處分ヲ爲ササルコトアルヘシ此等ノ場合ニ於テハ法人ノ財産ハ國庫ニ歸屬スヘキナリ

第三項 清算

法人ハ解散ニ因リテ人格ヲ失フト雖モ爲メニ解散前ニ享有セシ權利及ヒ負擔セシ義務モ同時ニ消滅スヘキモノトセハ法人ニ對スル債權者ノ權利ヲ害スルコト鮮シトセス故ニ法人ノ解散後ニ於テモ其實產負債ノ關係ヲ明カニシ債務ハ之ヲ履行シ殘餘財產ハ之ヲ權利者ニ引渡ササルヘカラス是レ清算ニ關スル規定アル所以ナリ

清算ノ目的ヲ達セントセハ解散シタル法人モ清算ノ目的ノ範圍内ニ於テハ尙ホ人格ヲ有スルモノトセサルヘカラス(第七三條法律カ此擬制ヲ設ケタル結果トシテ解散シタル法人ハ尙ホ左ノ法律關係ヲ有ス)

- 一 解散シタル法人ハ尙ホ權利ヲ有シ義務ヲ負擔ス
- 二 解散シタル法人ハ解散前ノ主タル事務所ヲ以テ尙ホ住所トス
- 三 解散シタル法人ハ尙ホ清算人ニ依リテ代表セラル
- 四 解散シタル法人ハ清算中尙ホ破産スルコトアリ

五 清算人ハ清算ノ目的ノ範圍内ニ於テ法人ノ名稱ヲ使用スルコトヲ得ヘ

清算ヲ説明スルニ當リテハ便宜ノ爲メ之ヲ左ノ數節ニ分ツヘシ

第一 清算人ノ選定及ヒ解任
法人カ破産ニ因リテ解散シタル場合ノ外解散當時ニ於ケル理事其清算人ト爲ルヲ原則トス然レトモ定款又ハ寄附行爲ヲ以テ清算人ヲ指定シ若クハ指定スル方法ヲ定メ其方法ニ依リ定マリタルカ或ハ總會ニ於テ特ニ清算人ヲ選定シタルトキハ其者ヲ以テ清算人トス法律カ法人ノ破産ノ場合ニ限リ清算人ヲ要セザルコトヲ規定セシハ此場合ニ於テハ破産法ノ規定ニ從ヒ裁判所カ破産管財人ヲ選任シ之ヲシテ法人ノ法律關係ヲ終局セシムルヲ以テナリ
法律ニ依リ當然清算人ト爲ルヘキ者ナキカ定款寄附行爲又ハ總會ノ選任ニ依リテ清算人ト爲ル者ナキカ若クハ清算人ノ死亡又ハ辭任ノ爲メ清算事務ヲ遂行スルコト能ハス隨テ損害ヲ生スル虞アルトキハ裁判所ハ利害關係人若クハ檢事ノ請求ニ因リ又ハ職權ヲ以テ清算人ヲ選任スルコトヲ得ヘシ(第七四條第

七五條) 清算ノ事務ハ公平且迅速ニ之ヲ執行セザルヘカサルモノナルヲ以テ清算人ノ處置ニ付キ多少不服ヲ唱フル者アルカ爲メ又ハ理由ナクシテ濫ニ之ヲ解任スルコトヲ得ヘシトセハ清算事務ノ滯留ヲ來スノミナラス清算人ハ不服ヲ唱フル者ノ歎心ヲ得ンコトヲ力メ公平ニ其職務ヲ執行セザルカ如キ弊ナシトセス故ニ一タヒ清算ノ任務ヲ與ヘタル以上ハ容易ニ之ヲ解任スルコトヲ得ザルモノトセザルヘカラス然レトモ絶對ニ之ヲ解任スルコトヲ得ストモハ反テ種種ナル弊害ヲ生スルコトアルヘキカ故ニ法律ハ裁判所ニ於テ解任ヲ要スヘキ重要ノ事由アリト認メタルトキハ職權ヲ以テ又ハ利害關係人若クハ檢事ノ請求ニ因リテ之ヲ解任スルコトヲ得ヘキモノトセリ重要ノ事由ハ其解任ヲ要スヘキ價值アル事實ヲ謂フモノニシテ例ヘハ清算人カ其職務ヲ行フニ怠慢不公正無經驗ナルカ如キ又ハ不正ノ行爲ヲ爲スカ如キ公平且迅速ニ清算結了スル見込ナキコトヲ判斷シ得ヘキ事由ヲ謂フモノナリ(第七六條)

第二 清算人ノ權限

清算人ハ法定ノ權限ヲ有ス其權限ハ當事者ノ意思ニ依リテ之ヲ伸縮スルコトヲ許サス而シテ其權限ハ清算ノ目的ノ範圍内ニ於テ限定セラル之ヲ列舉スレハ左ノ如シ

(イ) 現務ノ結了ハ其取引ノ施行中途ニシテ解散スルコトナシトセス此場合ニ於テハ其取引ヲ結了スルニ非サレハ法人ト相手方トノ法律關係ハ未確定ノ狀態ニ在ルヲ以テ清算ヲ爲サントセハ先ツ之ヲ確定セシメ權利義務ヲ明カニスルコトヲ要スレハナリ

(ロ) 債權ノ取立及ヒ債務ノ辨濟ハ清算人ハ清算ノ目的ノ範圍内ニ於テ法人ヲ代表スルカ故ニ解散セシメ法人ノ權利ハ清算人ニ依リテ行使セラレ其義務モ清算人ニ依リテ履行セラルヘキハ當然ナリトス

(ハ) 殘餘財産ノ引渡ハ法人ノ財産ヲ以テ其債務ヲ辨濟シ猶ホ殘存セル財産アルトキハ之ヲ歸屬權利者ニ引渡ササルヘカラス加之清算人ハ以上ノ職務ヲ爲スニ付キ必要ナルトキハ裁判上ト裁判外トヲ問ハス一切ノ行爲ヲ爲スコトヲ得例ヘハ債務ヲ履行セザル者ニ對シ強制履行ノ訴ヲ提起スルカ如キ辨濟ノ受

(二) 取消シ得ヘキ行為ヨリ生シタル義務ニ付キ擔保ヲ供與シ又ハ擔保ノ供與ヲ請求シタルトキ

(ホ) 取消シ得ヘキ行為ニ因リテ取得シタル權利ノ全部又ハ一部ヲ讓渡シタルトキ

(一) 取消シ得ヘキ行為ヨリ生シタル權利又ハ義務ニ付キ強制執行ヲ爲シ又ハ強制執行ヲ受ケタルトキ

右ニ掲ケタル場合ハ取消シ得ヘキ行為ヨリ權利又ハ義務ノ發生シタルコトヲ前提トスルニ非サレハ成立スルコト能ハサルヲ以テ右ノ場合ニ該當シタル者ハ取消シ得ヘキ行為ニ因リテ權利ヲ得又ハ義務ヲ負ヒタルコトヲ自認シタルモノト謂ハサルヘカラス故ニ法律ハ之ヲ以テ默示ノ追認ト推定シタルナリ但追認ヲ爲スコトヲ得サル時期ニ於テハ明示ノ追認スラ之ヲ爲スコト能ハサルカ故ニ默示ノ追認ナルモノアルヘカラサルコトハ言フ須タス又右ノ場合ニ該當シタル者カ自ラ默示ノ追認ヲ爲スニ非サルコトヲ明言スルトキハ默示ノ追認ト看ルヘカラサルハ勿論ナルヲ以テ右ノ場合ニ該當スルト同時ニ異議ヲ留

メタルトキハ追認ナル效力ヲ生スルコトナカルヘシ故ニ此ニ場合ハ自ラ法律ノ推定ニ對シ例外ヲ爲スモノトス

(二) 時効 取消權ハ追認ヲ爲スコトヲ得ル時ヨリ五年間之ヲ行ハサルニキハ時効ニ因リテ消滅スルモノトス(第一二六條前段凡ソ取消シ得ヘキ法律行為ニ因リテ生シタル權利ハ何時取消ニ遭フテ消滅スルニ至ルモ測ルヘカラサルモノナルヲ以テ此ノ如キ權利ヲ有スル者ノ法律上ノ地位ハ實ニ不確實ナルモノト謂ハサルヘカラス而シテ不確實ナル法律關係ノ長ク存續スルコトハ社會經濟上極メテ不利益ノ事ニ屬ス故ニ取消權ヲ與ヘテ保護セントシタル趣旨ヲ達スル以上ハ此ノ如キ狀態ハ成ルヘク速ニ之ヲ消滅セシムルノ必要アリ是レ法律カ特ニ短期ノ時効ヲ設ケタル所以ナリ然ルニ取消權ノ時効ハ常に追認ヲ爲スコトヲ得ル時ヨリ五年ヲ經過スルヲ要スルモノト爲ストキハ時トシテ法律カ特ニ短期ノ時効ヲ設ケタル所以ニ趣旨ヲ違スルコト能ハサルヘシ何トナレハ取消ノ原因カ無能力ニ在ルトキハ時ニ數十年ニ涉リテ其情況ヲ止メサルコトアルヘク又禁治產者カ能力ヲ回復スルモ久シク取消シ得ヘキ行為ヲ了知セ

在スルコトヲ得ス即チ(一)地役權ハ要役地ト共ニスルニ非ザレバ之ヲ買賣讓與スルコトヲ得ス(二)地役權ハ要役地ト共ニスルニ非ザレバ之ヲ行使スルコトヲ得ス(三)地役權ハ要役地ニ從タルモノトシテ要役地ノ所有權ノ移轉ト共ニ移轉スルコトヲ原則トス(四)地役權ハ其權利ノミテ土地ヨリ分離シテ處分スルコトヲ得ス(五)地役權ハ土地ノ要約ニ對シテ其權利ノ行使ニ對シテ其權利ノ行使ヲ得ス

第四 地役權ハ他人ノ土地ヲ使用スル權利ナリ 此點ハ地役權カ役權ノ一種ニ屬スル所以ナリ地役權ハ如何ナル使用權ヲ土地ノ上ニ有スルカ之ニ關シテハ三種ニ分類スルコトヲ得(一)ハ單ニ其土地ノ上ニ收益權ヲ有スルコト是ナリ例ハ果實其他ノ生産物ヲ收益スル如シ(二)ハ單純ナル使用權ニ止マル例ハ其土地ヲ通行スル如シ(三)ハ一種ノ禁令權ナリ例ハ隣地ニ於テ眺望ヲ害セザルカ爲メニ一定ノ建物ヲ建設ヲ禁スル如シ(四)ハ土地ノ上ニ一定ノ利益ヲ得ルカ爲メニ一定ノ建物トノ差異ヲ舉タレハ左ノ如シ(一)ハ地役權ノ行使ハ第一 地役權ト質權及ヒ抵當權トノ差異ヲ明セザルニ在リ(二)ハ地役權ハ單ニ土地ヲ使用スルノ權利ニ過キスシテ土地ノ使用ヲ以テ其目的ト

スルモ質權及ヒ抵當權ニ在リテハ其目的物ヲ債權ノ擔保ニ供スルコトヲ以テ目的トス即チ必要アル場合ニハ其目的物ヲ賣却シテ其賣價ヲ以テ債權ノ辨濟ニ充ツルモノトス是レ兩者ノ差異ナリトス

第二 地役權ト地上權及ヒ永小作權トノ差異

(一)其權利ノ範圍ヲ異ニス即チ地役權ハ其目的タル土地ニ對シテ之ヲ使用スルニ止マルモ地上權及ヒ永小作權ハ其使用ノ範圍甚タ廣クシテ殆ト所有權ニ酷似スルコトアリ之ニ反シ地役權ハ全ク所有權ノ從タル權利ニシテ他人ノ所有スル土地ノ上ニ從タル使用ヲ爲スニ止マルモノトス(二)地役權ハ必ズ一定ノ土地ノ便益ノ爲メニ存スルモ地上權永小作權ハ一定ノ土地ノ便益ノ爲メニ存スルコトヲ要セス却テ或一定ノ人ノ爲メニ存スルモノナリ是レ兩者ノ差異ナリトス

第二章 地役權ノ性質

地役權ノ性質ニ付テハ學者間種種ノ議論アリ或ハ(一)地役權ヲ以テ要役地ノ所

有權ノ擴張ナリトスル者アリ此說ハ所有權ノ觀念ト相容レス何トナレハ要役地ノ所有權ハ要役地ノ上ニノミ限ラレモノナルニ地役權ハ要役地ノ上ニ存スル權利ニ非スシテ承役地ノ上ニ存スル權利ナレハナリ或ハ(二)地役權ハ要役地ニ從タル權利ナリトスル者アリ此說ハ大體ニ於テ地役權ノ一性質ヲ明カニスルモノナルモ要役地アレハ必ス地役權存在スルモノニ非サレズ此說モ亦允當ナリト謂フコトヲ得ス或ハ(三)地役權ハ要役地ノ有スル權利ナリトスル者アリ是レ要役地ヲ以テ地役權ノ主體ナリトスルモノニシテ其民法ノ規定ト相容レタルハ明白ナリ若シ要役地カ地役權ノ主體ナリトセハ要役地ノ所有者カ承役地ノ所有者ト爲ルモ仍ホ其權利ハ存續スト謂ハサルヘカラサルモ此場合ニハ混同ニ因リ地役權消滅ストスルコト通例ナリ又以テ此說ヲ貫クコト能ハサルヲ知ルヘシ(第一七九條或ハ四)地役權ハ承役地ノ所有權ヲ分割スルモノナリトスル者アリト雖モ所有權ヲ分割スルノ觀念ハ既ニ所有權ノ章下ニ於テ述ヘタル如ク一ノ誤見ニシテ之ヲ採用スルコトヲ得サルモノトス然ラハ如何ニ之ヲ説明スヘキカ予ハ地役權ハ承役地ノ所有權ノ制限ナリトスルヲ以テ最モ當ヲ

得タル說ト信ス蓋シ地役權カ承役地所有權ノ制限タルコトハ地役權カ他物上權タルコトノ當然ノ結果ニシテ亦説明ヲ要セザルナリ(註)蓋シ地役權ハ終ニ地役權ノ性質トシテ尙ホ一言スヘキモノアリ即チ地役權ハ其性質不可分ナルコト是ナリ所謂不可分ハ地役權ハ其承役地全體ノ上ニ要役地全體ノ爲メニ存スルコトヲ謂フ隨テ地役權ハ要役地ノ一部若クハ承役地ノ一部ノ爲メニ存スルコトナキヲ原則トス此點ハ共有權ノ場合ニ適用アリ即チ(一)要役地若クハ承役地ノ所有權カ一人ニ屬セシテ數人ニ屬スル場合ニ於テハ其一人ノ共有者ノ爲メニ(二)地役權ヲ存在セシメ若クハ消滅セシムルコトヲ得ズ(三)要役地ヲ分割シタルトキハ地役權ハ分割セラレタル要役地ヲ各部ヲ爲メニ亦存在スル如シ例ヘハ茲ニ(一)ノ土地アリテ其土地ノ爲メニ地役權存在スル場合ニ於テハ其要役地カ二箇ニ分割セラレタルトキハ其要役地ノ各部分ハ亦各地役權ヲ有スルモノトス(第二八二條)

第三章 地役權ノ種類

地役權ノ種類ハ種種アリ其主要ノモノヲ舉ケレハ左ノ如シ

第一 積極的地役權及消極的地役權 積極的地役權トハ承役地ニ對シテ直接ニ行爲ヲ加フルコトニ依リテ權利ヲ行使スル地役權ヲ謂フ例ヘハ通行權ノ如シ消極的地役權トハ其承役地ノ上ニ或事項ヲ禁止スルニ依リテ權利ヲ行使スル地役權ナリ例ヘハ眺望權ノ如キ是ナリ

第二 繼續的地役權及非繼續的地役權 繼續的地役權トハ地役權ノ行使キラルル狀態カ常ニ繼續スルモノヲ謂フ例ヘハ通行權ノ如シ非繼續的地役權トハ或一定ノ時期ニ限り地役權ヲ行使スルモノヲ謂フ例ヘハ收穫ノ時期ニ限レル入會權ノ如シ

第三 表見的地役權及不表見的地役權 是レ地役權ノ成立外ニ表面ニ表ハルルト否トニ依リ區別スルモノニシテ例ヘハ通行權ノ如キハ表見的地役權ニシテ或事項ヲ禁止スルノ地役權ハ不表見的地役權ナリトス

第四 宅地地役權及非宅地地役權 是レ地役權ヲ其要役地ノ性質ニ依リ分類スルモノニシテ宅地地役權トハ其要役地カ宅地ニ屬スルモノヲ謂キ耕地地役

權ハ其要役地カ耕地ニ屬スルモノヲ謂フ

第四章 地役權ト所有權トノ關係

地役權ト所有權トノ關係ニ付キ特ニ注意スルべきモノアリ

第一 所有權ハ地役權ノ範圍内ニ於テハ地役權ノ行使ニ依リ制限ヲ受タルモノトス而シテ所有權カ制限セラルル範圍ハ或ハ契約ニ依リ或ハ地役權ノ性質ニ依リテ定マリ一定セザルモノ之ニ關シ何等ノ協定アラザルトキハ其制限ノ範圍ハ要役地ノ使用ノ爲メニ必要トスルノ分量ヲ以テ限度トスヘキモノトス

第二 承役地ノ所有者ハ地役權ヲ設定シタル後更ニ第三者ニ對シテ亦同種ノ地役權ヲ設定スルコトヲ得但之ニ因リ最初ノ地役權者ニ損害ヲ與フルコトヲ得ス

第三 地役權者ハ其權利ヲ行使スルニ當リ或地役權ノ爲メニ所有權ヲ制限スルコトヲ得ルモ此權利ヲ濫用シテ其目的以外ニ之ヲ使用スルコトヲ許サス

第五章 地役權ノ取得及消滅

地役權ノ主要ナル取得原因ヲ舉クレハ左ノ如シ
第一 契約ニ因リ地役權ヲ設定スルコトヲ得

第二 遺言ニ因リ地役權ヲ設定スルコトヲ得

第三 時効ニ因リ地役權ヲ取得スルコトアリ即チ(一)自己ノ爲メニスルノ意思ヲ以テ平穩且公然ニ地役權ヲ行使スル者ニシテ其行使ノ始ニ當リ善意且無過失オレハ十年ニシテ地役權ヲ取得スルモイトス(第一六三條第一六二條第一項)

(二)地役權ヲ平穩且公然ニ行使スル者ニシテ二十年ニ及フトキハ亦地役權ヲ取得スルモイトス(第一六三條第一六二條第二項或種類ノ地役權ハ取得時効ノ利益ヲ受タルコトヲ得ス即チ不繼續的地役權及ヒ不表見的地役權是ナリ何トナレハ此等ノ地役權ノ行使ハ繼續的ノ性質ヲ有セス且其行使ノ狀態ハ外部ニ表ハレサルヲ以テ之ニ取得時効ヲ認ムルハ所有者ノ爲メ甚タ不利益ナレハナリ(第二八三條)

次ニ地役權ノ主要ナル消滅原因ヲ舉クレハ左ノ如シ

第一 混同ノ場合 混同トハ我民法物權編ノ總則ニ認ムル一ノ原則ニシテ混同ノ事實存スルトキハ他物上權ハ消滅スルコトヲ本則トス(第一七九條)即チ地役權ノ場合ニ於テモ要役地ノ所有者カ承役地ノ所有權ヲ得タルトキハ即チ一ノ混同ノ場合ニシテ地役權消滅スルモノトス地役權ニ付テハ尙ホ特種ノ混同アリ(第二八十七條)規定是ナリ此場合ハ承役地ノ所有權ノ全部カ要役地ノ所有者ノ所有ト爲ルニ非ス承役地ノ中要役地ノ爲メ最モ必要ナル部分ノミノ所有權ヲ得ルニ因リテ消滅スルモノニシテ是レ亦一ノ特別ナル混同ニシテ承役地ノ權利ノ爲メニ特ニ法律カ設ケタル一種ノ消滅原因ナリ

第二 地役權カ消滅時効ニ罹ル場合 地役權ハ二十年間之ヲ行使セザルトキハ消滅スルモノトス(第一七六條)第一項此期間ハ繼續的地役權ニ在リテハ其地役權ノ行使ヲ妨グタル事實ノ生シタル時ヨリ起算シ不繼續的地役權ニ在リテハ其地役權ヲ行使シタル最後ノ時期ヨリ起算スルモノトス(第二九一條)即チ
第三 地役權ニ期限ノ設アル場合ニハ其期間ノ滿了ニ因リテ消滅ス 是レ當

民法物權(自第一章至第六章)目次

第一章 緒論

第二章 私權ノ觀念

第三章 私權ノ分類

第四章 物權ノ定義

第五章 物權ノ種類

第六章 物權ノ效力

第七章 物權ノ取得及ヒ喪失ニ關スル原則

第二編 占有權

第一章 占有權ノ意義

第二章 占有保護ノ理由

第三章 占有ノ種類

民法物權

自第一章至第六章

著者 中山須太郎

(二十五年四月發行)

民法物權(自第一章至第六章)目次

第一編 緒論

第一章 私權ノ觀念 一〇

第二章 私權ノ分類 一〇

第三章 物權ノ定義 一五

第四章 物權ノ種類 一八

第五章 物權ノ效力 二六

第六章 物權ノ淵源 二九

第七章 物權ノ取得及ヒ喪失ニ關スル原則 三一

第二編 占有權

第一章 占有權ノ意義 四〇

第二章 占有保護ノ理由 四九

第三章 占有ノ種類 五六

民法物權目次

第四章 占有權ノ取得及ヒ喪失

第一節 占有權ノ取得 六〇

第二節 代理人ニ依ル占有權ノ取得 六〇

第三節 占意思ニ依ル占有權ノ取得 六六

第四節 占有權ノ喪失 六九

第五章 占有權ノ效力

第一節 占有訴權 七六

第二節 占有者ハ適法ニ權利ヲ有スルモノト推定セラル 七六

第三節 占有者ハ權利ヲ取得ス 九四

第四節 占有者ハ果實ノ所有權ヲ取得ス 九五

第六章 準占有

第一節 準占有ノ意義 一〇七

第二節 準占有ノ範圍 一一二

第三節 準占有ノ取得及ヒ喪失 一一四

第四節 準占有ノ效力 一一八

第三編 所有權

第一章 所有權ノ意義 一九

第二章 所有權ノ作用 一九

第三章 所有權ノ目的物 二五

第四章 所有權ノ限界 三一

第五章 所有權ノ取得及ヒ喪失 三五

第一節 所有權ノ取得 三五

第六節 先占 五二

第二款 工作若クハ加工 五三

第三款 附合 五五

第四款 混和 五七

第五款 埋藏物ノ發見 六一

第六款	遺失物拾得	一六三
第七款	所有權ノ讓渡	一六四
第八款	時效	一六六
第二節	所有權ノ消滅原因	一六八
第六章	共有權	一六九
第四編	入會權	一八〇
第一章	入會權ノ意義	一八〇
第二章	入會權ノ性質	一八一
第三章	入會權ノ範圍	一八二
第四章	地役權ノ性質ヲ有スル入會權	一八四
第一節	意義	一八四
第二節	性質	一八六
第三節	範圍	一八七
第五章	共有權ノ性質ヲ有スル入會權	一九一

民法物權目次

第一節	意義	一九二
第二節	性質	一九二
第三節	範圍	一九二
第六章	債權ノ性質ヲ有スル入會權	一九六
第一節	意義	一九六
第二節	性質	一九六
第三節	範圍	一九八
第七章	入會權ニ關スル特種ノ權利	一九八
第五編	地上權	二〇〇
第一章	地上權ノ意義	二〇〇
第二章	地上權者ノ權利	二〇三
第三章	地上權者ノ義務	二〇五
第四章	地上權ノ設定及消滅	二〇六
第六編	永小作權	二〇八

第一章 永小作權ノ意義……………二〇八

第二章 永小作人ノ權利……………二〇九

第三章 永小作人ノ義務……………二一〇

第四章 永小作權ノ取得及ヒ喪失……………二一二

第七編 地役權……………二一四

第一章 地役權ノ意義……………二一四

第二章 地役權ノ性質……………二一七

第三章 地役權ノ種類……………二一九

第四章 地役權ト所有權トノ關係……………二二一

第五章 地役權ノ取得及ヒ消滅……………二二二

民法物權(自第一章)目次終

之ヲ受ケザルモトヲ得ルナリ今公使ヲ拒絕シタル實例ヲ舉クレハ千八百八十五年北米合衆國ヨリ伊太利國ニ「ケ」レ「」テル者ヲ公使トシテ派遣シタルニ伊太利ハ曰ク「ケ」レ「」ハ嘗テ伊太利王ヲ罵詈シタルカ故ニ彼ヲ公使トシテ受ケルヲ欲セズト現ニ駐在セル公使ヲ中途ニ於テ拒絕シタル實例ハ或國ヨリ合衆國ニ駐在セル公使カ白晝公然淫賣婦ヲ伴ヒテ公園ヲ散步シタリシヲ以テ拒絕シタルモノノ如キ又明治十八年我國カ和蘭公使ヲ拒絕シタルカ如シ

以上ハ國家ノ義務ヨリ觀察シタルモノナレトモ先ツ權利ノ方面ヨリ觀テ一國ハ公使ヲ派遣スルノ權利アリヤ否ヤヲ決スルノ必要アリ此問題ハ國家ノ種類ニ依リテ異ナルヲ以テ左ニ之ヲ分説ス

(一) 一都主權國 一都主權國ハ上主權國ヲシテ外交上ノ全部又ハ一都ヲ代表セシムルモノナル故ニ條約ノ内容如何ニ因リテ此權利ヲ認ムラルモト差アリ且全然之ヲ認ムラバ水ニ「」アリ戰爭以前「」ト「」ルモノ如キハ公使ヲ出不權利ヲ認ムラバ土耳其其如キ之ヲ認ムラバ又安南其如キハ外國ニ對シテ如何ナル事ヲモ佛國ノ許可ナクシテ爲スコト能ハサルカ故ニ公使

ニ非サレハ大使ヲ授受スルコト能ハス即チ帝國王國大共和國等ニ非サレハ大使ヲ授受スルヲ得ス其他ハ皆相互的ニシテ甲國ヨリ全權大使ヲ派遣スルハ乙國ハ甲國ニ對シテ又全權大使ヲ派遣スルカ如ク各階級ヲ通シテ同一ナリ故ニ暹羅及ヒ墨西哥ヨリ日本ニ辨理公使ヲ派遣スルカ故ニ日本モ二國ニ對シテ辨理公使ヲ派遣シ置キ其他ノ諸國トハ特命全權公使ヲ互ニ授受セリ然レトモ是レ慣例上完マレル事ニシテ國際法上ノ原則ニハ非ス故ニ各國ハ必ス之ヲ從ハサルヘカラサルモノニ非ス左レハ現時德國ヨリ瑞西共和國ニ全權大使ヲ派遣スレトモ瑞西ヨリ佛國ニハ公使ヲ派遣シ又英國ハ瑞西ニ公使ヲ派遣ストモ瑞西ハ英國ニ總領事ヲ派遣セリ

第四款 公使ノ職務

公使ノ職務ヲ説明スルノ前提トシテ公使ハ何時ヨリ公使タルヤヲ決スルノ必要アリ之ヲ二節ニ區別シテ國內法上ト國際法上トヨリ觀察セサルヘカラス公使ハ其本國ヨリ信認狀ヲ受ケテ派遣國ノ元首ニ捧呈シタル時ヨリ公使トシ

テ認メラルルモノナリ故ニ公使ハ信認狀ヲ所持シ其他全權狀常駐公使ニハナシ訓令書全權狀ノ細則ニシテ之ニ公然ト書類ト秘密ト書類トアリ及ヒ旅行券ヲ所持スルモノナリ本論ニ據キハハ公使ハ又首領人トシテ其國ニ於テ公使ハ公使タル地位ヲ有スルヨリ種種ノ特權ヲ有スルモノナリ此種特權ハ自國ニ在ル間ハ勿論第三國ニ於テモ有スルコトナク唯駐在國ニ於テノ之ヲ受タルモノナリ然レトモ駐在國ニ赴クトキハ其國境ニ入りタル時ヨリ此特權ヲ受タルモノナルカ又ハ元首ニ謁見シタル時ヨリ此特權ヲ受タルモノナルカハ問題ナリ理論ヨリ言フトキハ公使タル地位ハ駐在國ノ元首ニ信認狀ヲ捧呈シタル時ヨリ公使トシテ認メラルルモノナルコト前ニ述ヘタル所ノ如クナルカ故ニ其以前ニハ公使タルノ職務ヲ行フコト能ハス故ヲ以テ單獨國境ニ入りタルノミニテハ未ダ以テ公使タルノ地位特權ヲ受タルコトナリト論スヘキナリ然レトモ若シ此ノ如ク信認狀ヲ呈前ニ公使タルノ地位ナリトセハ謁見ニ際シテモ亦公使タルノ待遇ヲ受タルコト能ハスシテ大ニ雙方ニ不便ナルヲ以テ慣例上駐在國ノ國境ニ入りタル時ニ公使タルノ地位ヲ有スルモノトシ發國實

際ノ慣例ハ信認狀ノ原本ヲ駐在國外務省ニ交付シ其時ヨリ公使タルノ地位ヲ有スルコトトセリ而シテ公使タルノ地位ハ一時或事件ノ爲メニ派遣スル公使タルト常駐ノ公使タルトニ差異ナク均シク公使タルノ特權ヲ有スルモ異ナリト公使ハ之ヲ儀式上ノ公使ト職務上ノ公使トニ區別スルコトヲ得前者ノ例ハ出生死亡王位繼承勳章其他ノ贈典謝罪等ヲ爲メニ派遣セラレル公使ヲ謂ヒ後者ハ之ヲ分テテ左ノ二トス

(一) 唯一時或事件ノ爲メニ派遣セラレル者此ノ如キ公使ノ職務上ノ作用ハ一ニ其全權狀ノ内容ニ因リテ定メル而シテ其職務ハ其事件ヲ完了ト共ニ終ルモノナリ

(二) 永ク繼續シテ派遣國ヲ代表シ其地ニ於ケル一切ノ事件ヲ處理スル者此種ノ公使ハ駐在國ト本國トノ間ニ修好ヲ圖ルヲ目的トスヘク又公使ハ其地ノ事情ヲ觀察シテ之ヲ本國ニ報セサルヘカラス公使ハ又自國人民ノ駐在國ニ在ル者ノ爲メニ利益ヲ圖ラサルヘカラス又自國ノ公益ニ關スルモノナルハ自國人民ノ外國ニ在ル者ニ向ヒテ保護ヲ與フルコトヲ要ス

第五款 公使ノ特權

公使ハ特權ハ之ヲ分テテ四トス

第一 不可侵權

公使ハ有スル不可侵權ハ其治外法權ト之ヲ混同スルカラス抑モ治外法權トハ其駐在國ノ國法ニ服從セザル權利ヲ謂フ之ニ反シテ不可侵權ハ其駐在國ノ尊重セラレ特別ノ保護ヲ受ケル積極的ノ權利ヲ謂フ即チ公使ノ不可侵權トハ公使ハ其職務ヲ執行スルニ必要ナルニ因リ駐在地ノ國家カ特別ニ付與スル權利ナリ此ノ如ク治外法權ト不可侵權トハ全然其性質ヲ異ニスルモノナルコトノ明カナルニ拘ハラス英米ノ國際法學者ノ如キハ不可侵權ハ治外法權ノ餘邊ナリト主張シ其他或一二ノ學者モ亦之ヲ唱道セリ又之ニ反對スル學說ハ治外法權ニ不可侵權ノ除派ナリト主張セリ獨逸ノ學者タルシス氏ハ如キ其二人ナリ右ノ如キ學者間ニ者ヲ混同シテ說明スルハ弊アレトモ予輩前掲外タルカ如キ判然タル區別ノ存スル以上ハ二者決シテ同一ニ非ザルコトヲ信スル

ナリ。駐在國ニ駐留中ノ當然此不可侵權ヲ享有スルモノナリ。雖自公使自ラ其不可侵ヲ受テルコトヲ得タル行爲ヲ爲シタル場合ニ於テハ之ヲ放棄シタルモノト看做サルヘシ故ニ若シ公使ニ對テ斯ル所爲アル場合ニ於テハ此不可侵權ヲ主張スルコトヲ得タルナリ。國情ニ依リ或チハ不可侵權ハ前長官對テ前次ニ駐在國ハ駐割スル公使ニ對シ侮辱ヲ加ヘテ然ル者ハ特英國法ヲ以テ罰スヘキ旨ヲ規定スルモノアリ即チ僑逸及ヒ佛蘭西ニ如キ是ナリ。公使ニ對シハ第二重治外法權ハ、前長官受テ、前長官ノ對シハ公使ハ不可侵對シ公使ノ治外法權ニ付テハ嘗テ治外法權ノ大體ヲ説明スルニ當リ併セテ之カ説明ヲ爲シタルヲ以テ重キヲ益ニ述ブルコトヲ止メ唯一言ヲ附加シテ本項ヲ了ラントス。

此治外法權ハ單ニ外交官ノ限リ之ヲ享有スルモノニ非シテ他ニ之ヲ享有スル者アルコト是ナリ例ヘハ元首ノ如キ亦此特權ヲ享有スヘシ

第三 裁判權

公使カ自ラ裁判ヲ爲ス權限ハ唯單ニ其公使館館員ニ對シテハ之ヲ有スル過キナルナリ然レトモ其館員ニ對スル裁判ナリト雖モ其駐在國ノ秩序ニ違反スル場合ニ於テハ之カ裁判ヲ爲ス權限ヲ行使スルヲ得ス換言スレハ駐在國ノ法律ニ違反セサル範圍内ニ於テハ其裁判スル權限ヲ有スルニ過キス隨テ公使ノ裁判權ハ絶對的ノモノニ非シテ制限ヲ受クベキモノナリ明カナリ。左ニ公使ノ裁判權ニ對スル制限ヲ説明スヘシ。

公使ノ裁判權ハ單ニ民事上ノ事件ニ對スルニ限リテ決シテ刑事上ノ事件ニ付テハ之カ裁判ヲ爲ス權限ヲ有セサルモノナリ但刑事上ノ事件ト雖モ第十ノ手續ハ之ヲ爲スコトヲ得ルモノトス其第一ノ手續トハ裁判ヲ爲スニ至ル所ニテ手續例ヘハ取調ヲ爲スカ如キ本國ニ送還スルカ如キコトヲ謂フ故ニ原則トシテハ公使ハ刑事上ノ事件ニ對スル裁判權ヲ有セサルモノナリ。

公使ハ民事上ノ事件ニ付テハ裁判權ヲ有スルニ至リテ前所述ヘテリ。雖尚ホ此民事上ノ事件ニ付テモ總テ裁判權ヲ有スルモノニ非ス隨テ之ヲ分テテ説明スルヲ要ス即チ一、任意上ノ裁判ニ強制上ノ裁判是ナリ公使ハ上ニ掲タル三

者中任意上ノ裁判ニ對シテハ之ヲ管理裁判ヲ爲シ得ルモノニシテハ例
 以テ婚姻離婚事件ノ如キ又協議上ノ裁判ヲ如キハ之ヲ爲ス可トモ得ルシ然
 三 東洋諸國ニ駐在スル歐羅巴諸國對公使ハ上述ノ制限ニ拘ムラニ總務
 裁判權ヲ有スルモノトモ是レ一般原則ニ對スル例外ヲ成スモノナリ
 第四 信教自由權ニ從テ本國ニ對シテ本國ニ對シテ信教自由ノ保障シタル國家
 信教上ノ自由ヲ有スル權利ニ付テハ憲法ヲ以テ宗教ノ自由ヲ保障シタル國家
 ニ對シテハ特ニ之ヲ以テ公使ノ享有スル特權ナリトシテ說明スル必要ヲ見ス
 下 雖モ往來未タ宗教ノ自由ヲ認メタル國家アリ斯ル場合ニ於テ公使カ其國家
 ニ駐在スルトキハ當然此特權ヲ享有スルモノトモ然レトモ今ヤ各國此考ニ付
 テ大ナル進歩ヲ爲シタルヲ以テ均シテ宗教上ノ自由ヲ認ムルニ至ルノ期近キ
 ニテハキリ信スルヲ以テ特ニ此項ヲ必要トセサルニ至ルヤ知ルハ則チ其
 第六款 公使ノ地位ノ消滅
 第一 駐在國ヲ去ル場合 此場合ハ種種ノ原因ニ由リ又公使タルノ地位ハ消

滅スルモノナレトモ大體左ノ三因ニ歸スルナリ
 (一) 本國ヨリ駐在ヲ免セラレタル場合 此場合ハ國法上ニ於テ公使タル地位
 ヲ失フモノニ非ス唯駐在ヲ免セラレタルニ過キサルカ故ニ駐在國ヲ引上ケテ
 ルヘカラサルヲ第一事ニ付テハ公使タルノ地位ハ消滅スルモノナリ
 (二) 駐在ヲ拒絕セラレタル場合 此場合ハ本國對駐在國トシテ和平親好ヲ修ムルコトヲ目的
 (三) 戰爭開始ノ場合對公使ハ本國對駐在國トシテ和平親好ヲ修ムルコトヲ目的
 トシテ派遣セシメタルモノナルカ故ニ此狀態ヲ變ズルコトキハ公使ヲ派遣スル
 ノ必要ナキヲ以テ當然公使タルノ權利ナキモノナリ
 以上ノ場合ニ於テ消滅ノ原因發生スルトキハ直チニ公使タルノ地位ヲ失フヘ
 キ理論ナレトモ相當ノ期間内ニ駐在國ハ退去スルヲ公使タルノ特權ヲ付與
 スルコトヲ穩當トシテ各國ハ今日皆此方法ヲ採ルコトヲ認ムルモノナリ
 第二 國家ノ滅亡 自國ノ滅亡及駐在國ノ滅亡ニ因リテ公使ハ當然其地位
 ヲ失フモノトモ即チ自國ノ消滅ハ國際主體ノ消滅ニシテ國家カ滅亡シタルニ
 獨リ代表機關ノミ存在スル理由ナク又駐在國ノ消滅ハ公使ハ國家ノ政治上ノ

代表者トシテ相手國ニ駐在スルモノナリハ相手國オキニ獨リ公使ノ駐在スル
 管ナクレハナリ也。自國ノ官廳ニ屬スル官職トシテ公使ノ地位ニ屬スルモノ
 第三 元首ノ地位ノ變更ニ是レ亦自國及ビ駐在國ノ元首ノ變更ナリ元來公使
 ハ國家ヲ代表スルモノナレバ元首ノ變更ハ公使ノ地位ニ影響スヘキコトナキ
 カ如クナレトモ公使カ國家ヲ代表シテ相手國ニ駐在スルトハ國家ヨリモ現在
 ノ國家ノ元首ノ信託ニ因リテ相手國現在ノ元首ノ元首タル間ニ限リ派遣シタ
 ルモノナリ故ニ雙方又ハ一方ノ元首ノ地位ノ變更ニ因リテ公使ノ地位亦消滅
 スルモノトス然レトモ後繼ノ元首カ更ニ信託狀ヲ交付スレバ直チニ新元首ニ
 又ハ新元首ヨリテ公使トシテ地位ヲ有スルハ論ヲ俟タサルナリ也。自國ノ
 第四 駐在國ニ於テ或職務ヲ終リタル場合ニ此場合ハ一時的ノ公使ニ限ルモ
 ノニシテ此公使ハ或一事ニ付テノ公使ナルカ故ニ目的ノ成不成ニ因リテ公使
 ノ地位ハ消滅スルモノナリ也。自國ノ官廳ニ屬スル官職トシテ公使ノ地位
 第五 公使ノ死亡 別ニ説明スルニ要ナシ唯茲ニ少シク說明セザルヘカラサ
 ルハ公使ノ死亡ニ因リテ公使ノ有レタル財產其家族從者ノ特權ヲモ消滅スル

モノナルヤ否ヤ是ナリ故ニ左ニ之ヲ略述スルニ可シ也。公使ノ地位ニ屬スル
 (一) 財產 公使ノ死亡ニ因リ他人ニ其財產カ移轉シタル後ニ於テハ論ナレト
 雖モ遺產カ未タ何人ニモ相續セラレタル間ハ治外法權ヲ受クヘキヤ古代ニ在
 リテハ主權萬能ノ思想ヨリシテ所有者死亡スルトキハ其財產ハ國有ニ歸スル
 モノトセリ即チ相續以前ニ於テ既ニ國有ト爲ルナリ然ラバ近世ニ至リテハ此
 法理ハ認ララレタルニ至リ今日ニ於テハ便宜上相續人ノ手ニ歸スルニ至ルマ
 タハ治外法權ヲ與フルモノトセリ或學者ハ曰ク財產カ人ノ死亡ニ因リテ相續
 セラレタル間ハ一ノ財團法人ナルヲ以テ公使ノ有シタル財產ハ公使ノ有スル
 特權ト同一ノ特權ヲ受タルモノナリト我輩ハ此理由ニ因リテ公使ノ死後其
 財產ニ治外法權ヲ與フルノ不當ナルヲ信スル也。自國ノ官廳ニ屬スル官職トシ
 (二) 家族 公使ノ家族カ特權ヲ有スルハ公使カ特權ヲ有スルヲ以テナリ然ル
 ニ主タル公使カ消滅シタルニ從タル家族ニ此特權アル理由ナシ然レトモ便宜
 上相當ノ期間ヲ定メテ本國ニ歸ルルヲ以テ此特權ヲ與フルナリ也。自國ノ官廳
 (三) 從者 是レ亦同一ナリ也。自國ノ官廳ニ屬スル官職トシテ公使ノ地位ニ屬
 國際公法(平時) 本論 國家ノ代表機關 公使 二一九

ヲ得テ之ヲ行フヘク若シ作戰ノ必要上豫メ訓令ヲ得ザルトキハ國家ハ其行爲ヲ追認スヘク而シテ封鎖ハ交戦國カ其軍艦ヲ撤去シ又ハ封鎖ヲ行ヒ居ル軍艦カ敵國ノ爲メニ擊退セラレタルトキハ效力ヲ失ヒ更ニ又其場所ヲ封鎖ヲ行ヒ居ル交戦國ノ軍隊カ占領スルトキハ之ト同時ニ敵國權力ノ下ニ在ル土地ニ非サルニ至ルカ故ニ封鎖ハ效力ヲ終了スルモノトス

第二款 封鎖ニ關スル制裁

封鎖ニ關シテ中立國船舶カ交戦者ノ爲メニ拿捕沒收セララルルモ付テハ(第一)其封鎖ノ有效ナルモノナラコト(第二)其封鎖ヲ船舶カ知了シ居リタルコト(第三)其封鎖ヲ破リ若クハ破ラントスルノ行爲アルコトノ三要件ヲ具備セザルヘカラス就中封鎖ヲ行ハレ居ル事實ヲ知了シ居リタルコトヲ必要トスル所以ハ凡テ封鎖ハ戰爭ニ必然伴フヘキモノニ非ラシテ交戦者カ任意ニ之ヲ行フモノナルカ故ニ之ヲ知ラザルトキハ固ヨリ中立國船舶ハ交戦國雙方ノ如何ナル港ニモ交通通商ヲ爲シ得ヘキヲ以テナリ而シテ封鎖ノ行ハレタル港内ニ在ル船舶ハ

其事實ヲ知了スルモノト看做シ之ニ反證ヲ許サザレトモ港外ヨリシテ港内ニ入ラントスル船舶ニ關シテハ英美兩國ニ於テ事實上ノ知了ト推定上ノ知了トヲ區別シ事實上ノ知了ト云フハ船舶カ其封鎖ノ場所ニ近クニ當リテ封鎖ヲ行ヒ居ル軍艦ヨリシテ封鎖ノ存在ヲ告知セラレ其船舶ノ航海簿ニ記入ヲ受ケ將來ニ向ヒテ之ヲ破ラザルヘキ宣告ヲ得タル後同一船舶カ其封鎖ヲ破ラント企テタルモノヲ罰シスル場所ニ於テ同船舶カ其封鎖ヲ知了シ居ルコトヲ事實上ノ知了トシテ之ニ反證ヲ許サズ之ニ反シテ推定上ノ知了トハ封鎖ノ事實カ顯著ニシテ商業航海者社會一般ニ確ニ知レシタル場合ニ於テハ法廷ハ中立國船舶カ其封鎖ヲ知リタルモノト推測シ又本國政府ヨリ封鎖ノ事實ヲ中立國政府ニ通知シタルトキハ同政府ハ其人民ノ利益ヲ保護スル爲メ直チニ之ヲ一般人民ニ告知スヘキカ故ニ其通知ヲ爲シタルヨリ相當ノ時日後ハ其通知ヲ受ケタル中立國人民ハ同封鎖ヲ知了スルモノト看做スモノニシテ斯ル場合ニ於テ中立國商船カ其封鎖ヲ破ラントスルニ當リ封鎖ノ事實ヲ知ラザラシトシテ證明ヲ確實ニ爲サザル以上ハ總テ沒收セララルルモノトス之ニ反シ佛國主義ニ於テ

ハ單ニ事實上ノ知了ノミヲ認メ推定上ノ知了ヲ許サスシテ其理由トスル所ハ凡テ封鎖ハ諸種ノ原因ニ依リ何時ニテモ解除セララルカ故ニ中立國船舶ニ對シテハ悉ク事實上ノ通告ヲ必要トシ交戰國ヨリ中立國政府ニ對スル通知ハ單ニ好意ニ出テ其通知ノ有無ハ法律上何等ノ效力ナキモノトスルニ在リ然レトモ國際公法ノ法則トシテ封鎖ノ犯則ヲ組成スルニ付テハ單ニ船舶カ封鎖ヲ知リ居タルコトヲ必要トシ如何ニシテ之ヲ知リタルヤハ問フ所ニ非ス又交通通商ノ敏活ト爲リ來リタル今日ニ於テハ封鎖ノ事實ハ必スシモ各船舶カ封鎖ノ場所ニ近クニ當リテ軍艦ヨリ通告ヲ受ケタルニ非サレハ絕對ノニ之ヲ知ラザルモノト看做スハ時勢ニ後レタル説ト云フヘキカ如シ

封鎖ノ犯則ハ商船カ事實上其封鎖ヲ破リテ其場所ニ出入シタル場合ハ勿論其封鎖ヲ破ラントスル航海ヲモ不法トスルカ故ニ之ヲ破ラントスル目的ヲ以テ同港ニ向ヒ出發スルヤ否ヤ成立シ交戰者ハ其船舶カ出發スルヤ否ヤ海上ニ於テ之ヲ捕獲シ得ヘキモノトス此點ニ關シテ佛國主義ト英國主義ノ間ニ於テ互ニ異ナリタル大ナル影響ヲ有ス即チ佛國主義ニ依ラハ其船舶カ軍艦ヨリ封鎖

ノ通告ヲ受ケサル以前ニ於テハ其港ニ近クモ其航海ヲ不法ト爲ササレトモ英國主義ニ於テハ推定上ノ知了ヲ許スカ故ニ封鎖ノ事實カ知レ涉リ居ルトキハ其出發スルヤ直チニ拿捕シ反證ノ立タサルモノハ之ヲ處罰シ得ヘシ而シテ凡テ封鎖ハ其場所ト交通セントスルノ航海ヲ犯則トスルカ故ニ之ヲ破ラントノ意思ヲ以テ出發スル時ニ成立シ同一航海中ハ繼續シ同船カ封鎖ヲ破リタルトキハ歸航中ニ於テモ拿捕セラレヘク出發港ニ復歸スルニ於テ甫テ消滅シ其以後ニ於ケル無辜ナル航海ニ於テハ前犯則ヲ故ヲ以テ處罰セララルコトナシ但其犯則ナル航海中ト雖モ封鎖ノ終了ト爲ルトキハ之ト同時ニ其犯則ハ解除シ又封鎖ヲ破ルノ目的ニテ航海中本國軍艦其他疑フヘカラザル所ヨリシテ封鎖終了ノ通知ヲ受ケタルトキハ縱令其通知ノ誤認ナル場合ニ於テモ罰セラルルコトナク又航海中船舶カ其目的ヲ改メテ別ノ航路ヲ取リタルトキハ之ト同時ニ解除シ更ニ又天災風浪糧食缺乏等ノ爲メ避難ノ場合ニハ其積荷ニ變更ヲ爲サナルヲ條件トシテ封鎖ノ港内ニ出入ノ許可ヲ得テ入港シ得ヘク又近來諸國ハ條約ヲ以テ郵船ニ限リ港内ニ於テ商業ニ從事セザルノ條件ヲ以テ出入ヲ

許ナレ又交戦者ハ封鎖ヲ實行ノ際港内ニ於ケル中立國商船ニ立退ノ猶豫ヲ與
 フルコト行ハレ其封港實施以前ノ積荷ハ之ヲ以テ出港ヲ許スト雖モ其以後ニ
 搭載シタルモノハ縱令前以テ買入シタルモノト雖モ之ヲ以テ出港スル能ハス
 封鎖ノ犯則ニ對スル制裁ニ付キ第十八世紀中頃迄ハ其人民ヲモ處刑シタル
 コトアレトモ今日ニ於テハ更ニ船舶ヲ沒收スルニ止マルモノトス然レトモ同
 一船舶内ニ於ケル犯則者ニ屬スル財産ハ悉ク沒收ストノ原則ニ基キ若シ其犯
 則アル場合ニ於テ船舶所有者ニ屬スル物品ヲ搭載シ居タルトキハ其搭載品ヲ
 モ均シク沒收シ又船長ハ荷主ノ代人ト看做ササルヲ當然トスト雖モ其船舶カ
 出發以前ニ於テ到達地ノ封鎖ト爲リ居ル事實ノ明カナルトキハ荷主モ之ヲ知
 了スルモノト看做サレ縱令船長カ航海中ニ方向ヲ變シテ之ニ向ヒタルトキト
 雖モ荷主ノ爲メニシタリトノ推測ニ依リ荷主ハ其實事ヲ知ラサルコトヲ證明
 セサルヘカラス

第四節 戰時禁制品

第一款 戰時禁制品ノ性質

中立國人民ハ戰爭中交戦國雙方ト如何ナル物品ト雖モ其商業ヲ爲シ能ハサル
 ノ義務ナシ然レトモ交戦者ハ古來一般ニ認メラレタル權利トシテ戰國ニ直接
 ニ使用セラレ且其物品ノ性質上戰國ニ必要ナル物品ヲ敵國ニ輸入スル者アレ
 トキハ之ヲ海上ニ於テ捕獲スルヲ得ヘク斯ル物品ヲ戰時禁制品ト稱ス此故ニ
 中立國人民カ戰時禁制品ヲ交戦國ニ對シテ賣却スルハ妨ナシト雖モ之ヲ運搬
 スルトキハ對手者タル他ノ一方ノ交戦國ニ依リ海上ノ捕獲ヲ受タルコトアル
 ヘキ危險ヲ見ルモノトス之ヲ要スルニ戰時禁制品ノ犯則ハ(第一)中立國人民カ
 之ヲ賣却スルニ非シテ單ニ交戦國ニ運搬スルノ行爲ニ於テシ(第二)其犯則ヲ
 成立スルニハ其物品到達先ノ交戦國若シテ交戦者ナルヲ必要トス詳言セハ其
 到達先ノ交戦國ナルトキハ戰時禁制品ノ犯則タルコト疑ナシト雖モ必スシモ
 直接ニ交戦國ノ領土ニ運搬スルノ航海ニ限ラズシテ公海又ハ中立國港内ニ在
 ル交戦國軍艦ニ供給スルモノナルトキ又ハ中立國ニ於ケル交戦國ノ軍艦ニ供

給スルモノナルトキハ均シク戰時禁制品ノ犯則ヲ成立スルノミナラス中立國ニ向ヒテ航海スル場合ニ於テモ其航海ハ單ニ中立港ニ寄港スルニ過キスレバ實際其搭載品ヲ交戰國又ハ交戰者ニ引渡スル目的トスルトキハ連續航海ノ法則ニ依リ犯則ト爲ルモノトス(第三戰時禁制品ノ犯則ハ交戰者ナル到達先ニ向ヒテ船舶カ同物品ヲ積込ミ出發スルヤ否キ成立シ其運搬ノ航海中對敵國ハ之ヲ捕獲シ得ヘシト雖モ其物品ヲ到達先ニ引渡シタルト同時ニ解除ト爲ルモノトス何トナレハ元來戰時禁制品ヲ交戰者ニ運輸スルハ對敵國ニ於テ之ヲ捕獲シ得ルノ權利アルニ止マリ中立國人民カ其捕獲ノ危險ヲ冒シテ其物品ヲ賣却スルコトハ爲スヘカラサルニ非タルヲ以テナリ加之其運搬ノ航海中到達地カ中立港ト變シタルトキ又ハ敵國ニ降服シ若クハ割讓其他ニ由リテ中立地ト爲ルトキハ之ト同時ニ其犯則ノ終了スヘキハ勿論ナリ

連續航海ノ法則トハ千七百五十六年戰爭ノ法則ヨリ發生シ千七百五十六年英佛戰爭中佛國ハ殖民地貿易ヲ和蘭國ノ商船ニ許可シタルニ當時殖民地貿易ハ各本國ニ於テ之ヲ獨占シタルヲ以テ平時ニ於テ敵國ニ固有ノ商業ニ從事スル

者ハ敵人ト看做ストノ理由ヲ以テ英國軍艦ハ其和蘭國商船ヲ捕獲シ法廷ハ之ヲ沒收シ其捕獲ヲ名ケテ千七百五十六年戰爭ノ法則ト稱ス此道理ハ千七百九十三年英國ト佛西兩國トノ戰爭ニ於テ米船ニフセキス艦カ西班牙國バーセロナ港ノ物産ヲ搭載シテ米國アレムニ寄港ノ上西國殖民地「ハバナ」港ニ向ヒタルニ英國軍艦ノ爲メ西國乃至米國間ノ航海中ニ於テ拿捕セラレ法廷ハ此航海ヲ西國本國「バーセロナ」港ト米國アレム港間ノ航海及ヒ米國アレム港乃至「ハバナ」港間ノ航海トノ二航海ト看ルヘカラストシ其理由トシテ同航海ヲ通シテノ目的ハ西國ヨリ其物産ヲ同國殖民地「ハバナ」港ニ運搬スルニ在ルカ故ニ其航海全體ヲ一航海ト看ルヘク隨テ右米國商船ハ戰爭中西國ニ固有ナル其殖民地貿易即チ敵國ノ商業ニ從事シタルモノトシテ其船舶ヲ沒收セリ此法則ヲ名ケテ連續航海ノ法則ト稱ス然レトモ現今歐洲諸國ハ本國ト其殖民地間ノ貿易ヲ平時ニ於テモ他國人民一般ニ許可シ居ルカ故ニ連續航海ト稱スル法則カ發生スルニ至リタル事由ハ今日消失シタリト雖モ此法則ハ封鎖及ヒ戰時禁制品ノ場合ニ適用シ中立國商船カ封鎖ヲ破ラントシ又ハ戰時禁制品ヲ交戰國ニ運搬セシ

トスルニ當リテハ同船船カ其目的ヲ以テ出港スルヤ否ヤ各犯則チ成立スルカ故ニ縱令其商船ハ拿捕ノ危險ヲ避クルカ爲メ封鎖港附近ノ港ヲ到達先トシ又ハ中立國港ヲ戰時禁制品ノ到達地ト僞リテ其實際ノ目的ハ單ニ其諸港ニ寄港スルニ在リテ同港ヨリ時機ヲ窺ヒ犯則行爲ヲ爲サントスルモノナレトキハ對敵國軍艦ハ其船舶カ原出發港ヲ出ツルヤ否ヤ連續航海ノ法則ニ依リ拿捕沒收シ得ヘキモノトス而シテ米國ニ於テハ連續航海ノ法則ヲ適用スルニ當リ千八百六十一年南北戰爭ニ於テ他國ヨリ一層嚴酷ナル方針ヲ採リ中立國商船カ戰時禁制品ヲ搭載シテ中立國港ニ至ル場合ニ於テモ同港ヨリ他ノ船舶ニ轉載シテ敵國ニ運搬スルノ目的ナルトキハ其物品ニ關シテ之ヲ連續航海トシ當初其出發港ヨリスル航海中ニ於テモ之ヲ捕獲シタル實例少カラス

第一款 戰時禁制品ノ種類

戰時禁制品ノ種類ニ付テハ學說並ニ諸國ノ實例中ニ定メサル所アリト雖モ之ヲ識別スルニ付キ「プロシヤトス」ノ分類ハ其標準トシテ有力ナルモト疑ヒタ同

氏ハ凡テ物品ヲ三種トシ第一種ハ兵器彈藥ノ如キ其性質上普通ニ且主トシテ戰闘ノ用ニ直接ニ使用セラルルモノ第二種ハ書籍美術品ノ如キ普通ニ且主トシテ平和的ニ使用セラルルモノ第三種ハ糧食其他ノ如キ戰闘用並ニ平和的ニ使用セラルル物品トセリ就中第一種ハ固ヨリ戰時禁制品ニシテ第二種ハ決シテ戰時禁制品ニ非サルコトハ今日ト雖モ一般ニ異論ナキ所ナリ隨テ戰時禁制品ニ付キ諸國ノ實例ニ於テ一致セサル所ハ主トシテ第三種ニ在リテ兵器、彈藥軍艦等ハ戰時禁制品ナレトモ航海用ノ器具ハ第一種ニ屬スヘキヤ否ヤ又馬匹ハ第一種ニ屬スヘキモノナリヤ將テ第三種ニ屬スヘキモノナリヤニ付キ各國ハ自國ノ政略ニ依ルノミナラス時トシテハ其當時ノ利益ニ基キ見解ヲ異ニシ一般ニ云ハハ戰時禁制品ニ關シ英國主義ニ於テハ絕對的ノ戰時禁制品ト條件附戰時禁制品ヲ區別シ或種類ノ物品ハ其性質上戰時禁制品ト爲スコト疑ナシトシ其種類ニハ兵器彈藥ノミナラス航海用具及ヒ馬匹ヲモ之ニ包含シ又或種類ノ物品ハ其使用如何ニ依リテ之ヲ戰時禁制品ト看ルヘキヤ否ヤヲ決スヘキモノトシ斯ル物品ニ付テハ其物品ノミヲ見テ之ヲ決スヘカラスシテ其物品

ノ到達先其產出地若クハ到達地ニ於ケル敵人ノ需用如何ヲ考量シ又其物品ハ原料ナリヤ將タ製造品ナリヤ等ノ事情ヲ總合シテ之ヲ審査シタル上戰時禁制品ナリヤ否ヤヲ決定スヘキモノトセリ之ニ反シテ大陸主義ニ於テハ兵器彈藥軍艦ノ如キ戰爭用ニ使用スルモノ若クハ爆發物ノ原料ノミ其性質上之ヲ戰時禁制品トシ條件附禁制品ノ主義ハ之ヲ排斥スルカ若クハ之ヲ認ムルニ於テモ最モ狹隘ナル範圍ニ限定スルコトトシ「アルトラン」ノ如キハ糧食其他日常生活ニ缺クヘカラザル物品ハ決シテ戰時禁制品タルコト能ハサルモノトセリ之ヲ要スルニ一般ニ云ハハ英國主義ハ戰時禁制品ノ種類ヲ多クシテ捕獲ヲ嚴ニシ大陸主義ハ其數ヲ減シテ疑ハシキ場合ハ之ヲ寛大ニ處分スヘントスルニ在リ」英國主義ニ反對ノ主タル理由ハ第一「戰時禁制品ノ範圍ヲ豫定スルコト能ハス第二條件附戰時禁制品ノ如キハ其戰時禁制品トシテ沒收セラルルト否トヲ決スルニ付キ其積荷ノ當時ニ於テ荷主カ事實上若クハ推定上豫定シ得ベキ事情ニ依ラス却テ公海ニ於テ拿捕ヲ行フ當時ノ事情ニ依リ沒收ト否トヲ決スル不公平ヲ生シ英國法廷ニ於テ其沒收ト否トヲ決スヘキ戰爭進行ノ事情ハ荷主ノ

聞知シ能ハサルニ拘ハラス其自ラ知得セス又交戰者ハ互ニ之ヲ秘スルカ故ニ知得シ能ハサル事情如何ニ依リテ其財產ヲ沒收セラルルハ不當トスルニ在リ之ニ對シテ英國主義ニ於テハ第一科學的進歩ト共ニ兵器及ヒ戰闘用具ノ種類ハ時時變更ヲ生シ永久ニ互リテ一定シ得ヘキモノニ非ス凡テ戰時禁制品ト爲スト否トノ標準ハ戰闘ノ用具トシテ使用セラルルニ在ルコトハ終始變更スルコトナシト雖モ其適用ハ戰爭ノ進歩ト共ニ差異ヲ生スヘキモノトス第二其物品ノ戰闘ニ有害ナルヤ否ヤハ單ニ其當時ニ於ケル特別ノ事情如何ニ依リテ決セラルヘク石炭ノ如キモ其賣買運搬力時トシテハ戰爭ノ進行ニ何等ノ影響ナキニ拘ハラス事情ニ依リテハ敵軍ニ採リ普通ノ兵器ヨリモ一層有用ニシテ其供給ハ自國ニ採リテ甚シキ有害ナルコトアルカ故ニ斯ル事情ノ下ニ於テハ戰時禁制品ニ關スル原則ノ性質上之ヲ捕獲スヘキコト疑ナシトセリ此議論ハ容易ニ其曲直ヲ定ムル能ハス隨テ古來諸國ハ戰時禁制品ノ種類ヲ條約ヲ以テ約定シタルモノ多シト雖モ其規定ハ國家ニ依リテ之ヲ異ニスルニミナラス同一國ト雖モ馬匹若クハ航海用具等ニ付テハ一時ハ之ヲ戰時禁制品ト約定シナカ

ヲ之ニ前後シテ戰時禁制品ニ非ストシ又甲國トハ條約ニ於テハ戰時禁制品ト
 約定スルト同時ニ乙國トハ條約ニ於テハ然ラヌトシタル如キ時ト場合ニ依リ
 テ之ヲ異ニシ諸國ノ條約ヲ通シテ其規定ノ一定シタル所ナク隨テ此點ニ付キ
 國際公法上ノ法則又ハ慣例ト看ルヘキモノナシ然レトモ「アロシニ」ニ「乙」ノ分類
 中第一種ハ戰時禁制品ナルコト疑ナク之ニ兵器軍艦若クハ其一部並ニ彈丸彈
 藥及ヒ其原料ヲモ包含シ第二種ハ固ヨリ禁制品ニ非スシテ第三種ハ之ヲ戰闘
 使用ノ爲メ運搬スル場合若クハ其運搬カ事實上戰争ヲ使用ト爲ルヘキヤ否ヤ
 ニ依リテ之ヲ決スヘク馬匹石炭航海用ノ器具及ヒ糧食衣服貨幣如キハ第三
 種ニ屬シ斯ル物品ノ運搬ハ軍用ニ供セラルトキハ捕獲セラルヘク日清戰争
 ニ際シ我國ノ捕獲規定ニ於テモ之ト同一主義ヲ採レリ

第三款 戰時禁制品ノ制裁

戰時禁制品ニ關スル規則ノ制裁ハ其物品ノ沒收ヲ以テ原則トシ其船舶所有者
 カ戰時禁制品ノ所有者ト同一人ナルトキ又ハ其物品ノ運搬ニ付キ船舶カ記錄

ヲ偽リ若クハ其物品ヲ庇護スル爲メ詐僞アリタルトキ又ハ船舶ニシテ其物品
 ノ搜查ニ反抗シタル如キ場合ノ外ハ船舶自體ハ沒收セララルコトナシ此故ニ
 若シ其物品所有者カ船舶一部ノ所有者ナルトキハ其部分ヲ沒收セラレ之ニ對
 スル代價ノ支拂ヲ強制セラルヘク又同船内ニ在ル他ノ物品カ禁制品所有者ニ
 屬スルトキハ其物品ヲモ沒收セラレルハ前述ノ如シ加之中世以來強買ト稱シ
 テ交戦者カ其入用ノ物品ヲ中立國船舶内モリシテ相當ノ代價ヲ以テ強制的ニ
 買入ルルノ慣例アレトモ凡テ強買ハ之ヲ買收セントスル物品ノ性質上果シテ
 戰時禁制品トシテ捕獲スヘキヤ否ヤ疑ハシキ場合若クハ國家間ニ其見解ヲ異
 ニスル場合ニ於テ適用セララルコトアリテ斯ル場合ニハ其強買ハ決シテ批難
 スヘキ所ナシト雖モ然ラサル場合ニ於テハ近世ノ學者ハ一般ニ強買ハ交戦者
 ノ權利ト看做サスシテ交戦者カ何等ノ犯則ナキ中立國船舶ノ航海並ニ通商ヲ
 妨害シ其意ニ反シテ搭載品ヲ強制的ニ買收スルハ中立國ノ權利ヲ侵害スルモ
 ノナリトセリ

第五節 非中立ノ業務

中立國人民カ其船舶ヲ交戰者ノ使用ニ供シ其戰鬪ノ進行ヲ援助スルトキハ之ヲ非中立ノ業務ト稱シテ其船舶ハ他ノ一方ナル交戰者ノ爲メ捕獲セラレヘキモノトス船舶ヲ斯ル使用ニ供スルハ第一交戰國ノ陸軍若クハ海軍ノ信號又ハ信書ヲ運搬スルコト第二交戰國ノ戰爭ニ使用スル人員特ニ陸海軍ノ軍人ヲ運搬スルコト等ニシテ此等ノ用ニ船舶ヲ供スルハ中立國人民ノ正當ニ行ヒ得ヘキ普通ノ商業ニ非スレテ經令制限的且一時のト雖モ交戰國ノ軍事上ニ干與スルモノトス而シテ一定ノ使用ニシテ中立違反ノモノナリヤ否ヤヲ區別スルニハ其使用契約ノ性質並ニ船長ノ之ヲ知了シ居ルヤ否ヤ果シテ其船舶ヲ交戰國政府ノ爲メニスル戰爭上ノ使用ニ供シタルヤ否ヤニ依リテ決スヘシ然レトモ郵船ニ於テ中立國ト交戰國トノ間ニ外交官又ハ領事官又ハ軍人ヲ單ニ普通船客トシテ運搬シ若クハ其國家間ニ於ケル公文書ヲ運搬スルハ中立違反ニ非ス何トナレハ斯ル船客又ハ文書ノ運搬ハ必スシモ戰鬪ノ進行ヲ援助スルノ行爲

ニ非スシズ中立國ト交戰國トノ國際ヲ維持スルニ必要ナルヲ以テナリ加之近世ニ於テハ凡テ郵便物ハ政府ノ書類ト雖モ船長ニ於テ其内容ヲ知ルモノニ非ス又條約ヲ以テ敵國間ニ於テモ其運搬ヲ自由ト爲スモノアルニ至リタルカ故ニ交戰國軍艦カ郵船ヲ臨檢搜查スルニ於テモ斯ル書類ノ檢閲ヲ爲スヘカラザルモノトス之ヲ要スルニ中立國ノ船舶ニシテ捕獲沒收セザルヘキ非中立ノ業務トハ交戰國ノ費用ニテ其使用ノ爲メ商船ヲ雇入レ若クハ其船舶カ自ラ交戰國政府ノ爲メ其軍隊兵士ノ運搬ニ從事シ其他同政府ノ爲メ戰爭ニ有用ナル業務ニ從事スルヲ意味スルモノトスニ其類ハ「貨物、手紙、信札、電報、郵便、新聞、書籍、雜誌、地圖、海圖、航海圖、航海表、航海日誌、航海報告、航海手帳、航海圖、航海表、航海日誌、航海報告、航海手帳」非中立ノ業務ニ關スル法則違反ノ制裁ハ其航海ヲ不法トスルカ故ニ其船舶ノ到達地如何ニ拘ハラス同船舶ヲ沒收シ其積荷ヲ所有者カ船舶所有者ト同一人ナルトキ又ハ船舶ニ於テ詐欺若クハ隱匿ヲ爲シタル場合ニ限リ其物品ヲ沒收スルモノトス千八百六十一年一月七日英國郵船トレント「トレント」(「トレント」)港ニ至ル航海中南軍政府ヨリ英佛兩國ニ派遣セル使節兩名及ヒ其書記官一名宛ヲ船客トシテ搭載シ居タルニ公海ニ於テ北軍軍艦「サン、ジャ、ン、ズ」

ニ依リ臨檢セラル同艦ハ其兩使節及ヒ書記官ヲ俘虜トシテ米國ボストン府ニ
 捕ヘ來リタルヲ以テ英米兩國ノ紛議ヲ坐視英國政府ハトシテ艦ヲ到達先
 「アジール」港ニシテ中立國ナルカ故ニ兩使節及ヒ書記官ヲ搭載シ戰時禁制品ニ非
 ストシ米國政府ハ直チニ其解放ヲ爲スベキ氣トシテ要請シ爭議ノ未定ニ米國政
 府ハ四名ノ俘虜ハ海上ニ於ケル臨檢搜查權ヲ遂行上正當ニ捕ヘタルモノナ
 ト主張シナカガ軍艦カドレト號内ニ敵國ノ使節ヲ發見シタルニ當リ同號ヲ
 米國捕獲審檢所ニ引致セシテ軍ニ使節ノミヲ俘虜トシテ取去リタルヲ不法
 トシ右四名ヲトシテ號ノ到達地カドレト號内ニ送致ノ爲メ英國軍艦ニ引
 渡セリ然レドモ此問題ハ元來非中立ノ事業ニ關スル法則ノ違反ナリ否ヤ
 問題ニシテ英米兩國政府ノ爭論シ難ク如キ戰時禁制品ノ問題ニ屬スルモ
 ニ非ス加スルニ前述ノ理由ニ依リ「トレ」號ハ南軍ノ使節ヲ船客トシテ運搬
 シタルハ非中立ノ業務ニ關スル法則上決シテ不法ニ非ナルコト疑ナシハ
 前ニ試メ「トレ」號ハ海軍ノ海軍ノ艦ヲ離リ「トレ」號ハ其内容ヲ破ルベ
 國際公法(局外中立)終

國際公法(局外中立)目次

(三十五年皮講義録)

法學士 秋山雅之介 講述

國際公法(局外中立)

和佛法律學校發行

第二章 戰爭行為ニ干與又助勢セラル義務……………三〇

第一節 中立國版圖内ヲ戰爭行為ノ用ニ供セシメテ……………三八

第二款 中立國ノ義務不履行ヨリ生ズル直接損害……………三七

第三章 中立國人民ノ行為ニ關スル權利義務……………四三

第一節 總則……………四三

第二節 中立國人民ノ普通商業……………四六

第一款 海上捕獲……………四六

第二款 陸地檢査……………四九

第三節 封鎖……………五二

第一款 封鎖ノ性質……………五三

第二款 封鎖ノ效力……………五五

第三款 封鎖ニ關スル制裁……………五八

國際公法(局外中立)目次……………五八

第四章 戰時禁制品……………六二

第一款 戰時禁制品ノ性質……………六三

第二款 戰時禁制品ノ種類……………六六

第三款 戰時禁制品ノ制裁……………七〇

第五節 非中立ノ業務……………七二

國際公法(局外中立)目次終

經濟學叢書(中立)目次

第一章 中立國人民之行為ニ關スル權利義務

第一節 概論 四三

第二節 中立國人民ノ普通權利 四六

第三節 海上航行 四六

第四節 陸上航行 四六

第五節 我中立ノ義務 四七

第六節 彈和裝備品ノ輸送 五〇

第七節 彈和裝備品ノ解凍 五六

第八節 彈和裝備品ノ封賞 六三

第九節 彈和裝備品 六三

經濟學總論

經濟學ノ研究ハ何レノ時代ニ於テモ頗ル必要ナリ然レトモ其特ニ今日ノ時勢ニ照シテ非常ニ必要ナルハ世人ノ一般ニ認メサルヲ得ナド所ナルヘシ經濟學ノ研究ハ實ニ一方ニ於テ實際上非常ニ必要ナルト同時ニ他方ニ於テハ又純粹ノ學理研究上ニモ必要ナリトス

緒言

經濟學ノ研究ハ何レノ時代ニ於テモ頗ル必要ナリ然レトモ其特ニ今日ノ時勢ニ照シテ非常ニ必要ナルハ世人ノ一般ニ認メサルヲ得ナド所ナルヘシ經濟學ノ研究ハ實ニ一方ニ於テ實際上非常ニ必要ナルト同時ニ他方ニ於テハ又純粹ノ學理研究上ニモ必要ナリトス

抑モ經濟ニ關スル研究ハ歐羅巴ニ於テハ述ク希臘羅馬ノ昔時ヨリ東洋ニ於テハ印度支那ノ太古ヨリ既ニ發生シ居リ時ヲ經ルニ隨ヒ漸漸進歩發達シ來リ處ルモノナルニモ拘ハラズ之ヲ一科ノ獨立シタル學問トシテ研究スルニ至ル

ハ漸ク今ヲ去ルニト百餘年前ノ事ナリトス是ヲ以テ經濟學上於テ未タ何人ト雖モ疑フベカラザル眞理トシテ認メテ得ザル一定不動必然の原理原則ナルモノ多ク存在セシ隨テ之ニ關スル學派モ亦數多アリ而シテ亦今氣即チ經濟學ノ變遷時代ナリ既ニ變遷ノ時代ナリ故ニ今日正確ニシテ疑フヘカラザル理論ナリトシテ一般ニ認メテ得ザルモノモ明日正確ニシテ取ル兵起テタル誤謬ノ甚シキ空論トシテ排斥サレルニ至ルヤモ未タ知ルベカラズ學問時ニ當リテ經濟學ノ原理原則ヲ絕對的ニ疑フベカラザルモノ其初テ確定セザルハ極メテ困難ノ事ニ屬スルト同時ニ亦斯道ノ學者先輩カ當ニ奮ヒテ務ムヘキ必要ノ事タリ

又我邦現時ノ狀態ニ於テ經濟學ノ實際上非常ニ必要ナルハ多言ヲ要セザル所ナリ抑モ我國現時ノ經濟界ハ實ニ變化ノ甚シキ時代ニ遭遇セルモノニシテ又實ニ最モ困難ナル境遇ニ在リ特ニ日清戰役ノ後ニ至リ諸種ノ事業勃然トシテ興起シ之カ爲メ資金ノ供給ニ缺乏ヲ告クルニ至レリ而シテ此等ノ事業ハ果シテ皆悉ク有益確實ノ事業ナルヤ否ヤ他語以テ之ヲ言ヘハ資金ハ皆悉ク有益確

實ナル事業ニ投セラレ終リタルカ爲メ遂ニ不足ヲ訴フルニ至レルモノナルヤ否ヤ是レ頗ル決シ難キ又問題ナリ蓋シ顧フニ一時勃興セル多クノ事業中ニ在リテハ投機ノ事業モ亦比較的ニ頗ル多數ヲ占メタルモノナリ如シテ此等ノ投機ノ事業ヲ除キ他ノ種類ノ事業ニ對シテモ仍ホ資金ノ不足ヲ居ルヤ是レ實ニ須ラク攻究一番ヲ要スル事ナリ近時外資輸入ノ漸ク世間ノ問題ト爲リト雖モ是レ今日ノ實際ニ於テ頗ル困難ノ事ナリ抑モ外資輸入ノ事タル必スシモ可ナラザルニ非ス場合ニ依リテハ大ニ可ナリ然レトモ二年以來外資輸入説ノ大ニ勢力ヲ得ルニ至レル所以ノ本邦近時ノ經濟事情ハ虚心平氣ニ之ヲ究メザルヘカラス惟テニ本邦ノ近時ハ金融逼迫ノ時代ナリ而シテ金融逼迫ハ必スシモ資本ノ不足ノミニ因ルニ非ス資本ノ實際豊富ナル場合ニモ亦金融逼迫ノ現象往往存在スルコトナルヲ忘ルベカラズ金融ノ逼迫ハ國內ニ實際存在スレトモ貯藏セラレ居ルカ爲メ資本カ資本トシテ世上ニ出ラザルニ因ルコトアリ是レ畢竟國民ノ貯蓄ニ對スル觀念ノ誤レルト金融機關ノ不整頓ナルトヨリシテ起ル結果ナリ此等ノ實地問題ヲ解釋スルニハ經濟學ノ思想ヲ要スルコ

ト勿論ナリ是レ我邦今日ノ實際上斯學攻究ノ必要ナル所以一ナリ
 金融社會ニ關スル重要問題ハ先ツ前述スル所ニ止レ借テ次ニ工業ニ關スル特
 別問題ハ如何ニ最近七八年以來ニ於ケル工業社會ノ進歩ニ伴ヒ今ヤ既テ
 工業主ト勞働者トノ間ニテ大衝突ヲ惹起セントスルノ形勢ト爲リニ殊ニ近
 來大工場ニ於テ屢々之ヲ見ル是ニ於テカ職工保護問題起リ工業條例ノ制定必要
 ナルヲ説ク者アルニ至レリ嘗テ開キシ所ニ據ヒハ拘種ノ條例ハ第十三議會ニ
 工場法案トシテ提出セラレルトノコトナリシ者如何ナル都合ニテ事案ニ茲ニ
 至ラサリキ然レトモ之ヲ要スルニ工場ニ關スル問題ノ多少世人ノ注目ヲ惹ク
 ニ至リシハ確ニ最近ノ著明ナル事實ナリ而シテ職工保護ノ今日ニ必要ナルハ
 誠ニ疑フヘカラサル事ナレトモ其保護ノ程度ハ如何ニ定ムヘキカ若シ此
 種ノ社會政策的立法ノ第一著手ニ制定スルル法令ニシテ不完全甚シカラシカ
 後日ニ至リテ之ヲ改良スルコト決シテ易シトモス故ニ將ニ始メテ制定セント
 スルノ今日ニ於テ豫メ大ニ之ヲ攻究シ以テ出來ル迄完全ナルモノヲ設ケサレ
 ハカラス

次ニ財政上ノ問題ハ如何抑モ今日ノ財政問題ハ何ソヤ曰ク是レ戦後ノ經營ニ
 必要ナル財政ヲ如何ニ處置スヘキヤノ問題はナリ二十七八年戦役後ノ經營事
 業トシテ起レルモノ頗ル多シ其中ニ就キ軍備擴張ノ一事ハ萬業ノ口ニセラレ
 タル所ナリ然レトモ軍備擴張スルノモノヲ以テ萬全ナル國家ノ經營策ト
 爲スヘカラサルハ勿論ナリ農工商ノ業務モ教育ノ事モ亦其ニ之ヲ擴張スルヲ
 要ス然ルニ此等ノ種類ニ屬スル經費殊ニ教育費ハ極メテ不充分ナリ試ニ世界
 各國ノ財政ニ關スル統計ヲ見ヨ歐米ノ強大國ハ論スルマテモ大ニ稍セ中等ニ
 位スル國否頗ル小ナル國ニ於テモ尙キ其教育費遙ニ我邦ヲ凌駕スルモノ尠カ
 ラス四千餘萬ノ人口ト二萬七千六十二方里餘ノ面積ト有スル我大日本ハ此
 點ニ於テ果シテ愧色ナキヲ得ヘキヤ學術ノ進歩農工商ノ發達頗ル遲延タルヤ
 誠ニ故ナキニ非サルナリ現ニ歐米諸國ニ於テハ左程ノ新發明ニ非サル事モ我
 邦ニ於テハ大發明トシテ賞讃セラレ發明者モ亦得熱ク其如キハ以テ諸般
 ノ事皆頗ル幼稚ナルヲ證スルニ足レリト爲スヘシ噫嗚ルニ及ビ我邦ノ如キハ往
 又交通機關ノ如キモ時ニ京濱間ノ電信ニ三時間ヲ要スルモノトテ所在如キハ往

往吾人ノ耳染ニ接スル所ナリ是レ畢竟經費不充分ノ結果ナラヌトセシヤ之ヲ
 要スルニ今日ノ狀態ニ有ラユル事業ヲ經費ノ不足ヲ感シツツアルノ時ナリ是
 レ果シテ軍備擴張ノ結果ナルカ又果シテ軍備擴張ハ既ニ國力ニ堪ヘズトスル
 カ蓋シ他ノ事業ニ比較シテ聊カ多額ナリト謂フニ過キヤルハシ而シテ今日社
 會全般ノ事業ニ對シテ一時ニ消極的政策ヲ採ラシトスルモ到底不能ノ事ニ屬
 ス何トナレハ中途ニシテ當初ノ方針ヲ改ムルトモ恰モ且植付ケタル苗ヲ
 中途ニ植換フルト同シタ既ニ費シタル勞力資本ヲハ遂ニ空無ニ歸セシメサル
 ヘカラス況ヤ其成果ノ見ルヘカヲタル論ナキニ於テアヤ一言ニシテ之ヲ盡セ
 ハ今日ノ歳入ヲ以テ擴張ヲ要スル總テノ事業ヲ經營セシトスルハ到底不能ノ
 業ナリ一日モ早ク他ニ確實ナル財源ヲ發見セサルモカテ夫レ而シテ今日之ヲ救
 濟策ヲ論スル者一ニシテ足ラヌト雖モ要スルニ一六即チ歳入ヲ増加セシトセ
 ハ地租ノ如キ直接稅ヲ増加スルニ若カストスルモノニシテ他ノ一六即チ主ト
 シテ砂糖稅及ヒ酒稅等ノ如キ財政學上ニ於テ消費稅ト稱スルモノヲ以テモ
 トスルモノトノ議論ニ外ナラス此種ノ問題タル決シテ一朝一夕ニ其利害得失

ヲ決スヘキモノニ非ス攷究シ上ニモ更ニ攷究ヲ要スヘキニ大問題タリ抑モ酒
 稅及ヒ砂糖稅等ノ如キハ之ヲ如何ニ増加スルモノ一見決シテ不都合ナキカ如シ
 ト雖モ是レ皮相ノ見タルヲ精密ニ攷究スルトキハ彼ノ下等社會ノ終日勞働
 ニ從事スル者ニ在リテハ一杯ノ晚酌ヲ以テ終日ノ勞ヲ慰スルモノナレハ此社
 會ニ在リテハ一定ノ分量ヲ超ユナル以上ハ酒ヲ往往必要ナルコト誠ニ吾人想
 像ノ外ニ在リ斯ル次第才ハ課稅ノ高キニ過タルモ低キニ失スルモ共ニ害ヲ
 要ハ唯其稅率如何ニ在ルノミ殊ニ酒稅ノ如キニ在リテハ課稅高價ニ失スレ
 ハ自然酒質ヲ惡シタスル弊アリ即チ酒ニ亞爾爾保兒ヲ混和スル者アルニ至
 ルヘシ亞兒爾保爾ハ最モ恐ルヘキ害毒ヲ含ムモノナレハ飲酒家ハ爲メニ健康
 ヲ害シ國民衛生ニ公衆衛生以上ニ至大ノ害ヲ與フルモノナレハ又砂糖稅ニ付テモ
 右ト同様ノ弊ナキニ非ス即チ砂糖ノ如キハ社會ノ進歩ニ伴隨シ國民ノ嗜好
 スルモノナレハ一旦砂糖ノ甘味ヲ覺ユタル者ニ向ヒテ之ヲ廢セシムルハ業ヲ
 得タルモノニ非ス況ヤ課稅高キニ失スルトキハ是等ノ比較的其下等ノ廉價物
 ヲ食スルコトヲ得タル者カ違ハ是ヨリ一層高價ナル他ノ貨物ヲ消費スルニ至

ルハシ是レ實ニ上等社會ニ影響ヲ與アルヲ以テララス下等社會ニモ亦重大ナル影響ヲ與フルモノナリ蓋シ消費稅ヲ増加スルハ國家百年ノ長計ナルヘシト雖モ一時ニ之ヲ増加スルトキハ一般ノ秩序ヲ傷ムルキヲ以テ却テ惡結果ヲ惹スニ至ルヘシ是レ經濟學上ヨリ大ニ論究セラルヘカラス大問題ナリ

茲ニ注意スヘキハ政治問題ト經濟財政問題トノ混同ヲ避クヘキコト是ナリ地租増加問題ノ如キハ在リテハ代議士カ自家ノ選舉區民ヲ歡心ヲ買ハシムルニ其良心ヲ枉ケテ増稅說ニ反對シ財政經濟ノ問題ト政治問題トヲ混同スルモノナリトモ豈慨セザルヘクシヤ又一方ハ地租増徴ハ後日ノ豫備ニセントスルモノアリ是レ財政學上大ニ論究スヘキ好問題ナリ而シテ財政學ハ經濟學ノ範圍内ニ在リトス

又經濟學ハ法律學ト關係スル所極メテ多ク兩兩相待テテ完キヲ得ルモノナリ即テ法典ノ制定ハ經濟學ニ非常ナル影響ヲ及ホスモノナリ

經濟學ニハ總論純正經濟學應用經濟學ノ別アリ而シテ總論ハ學者ニ依リ往往其意義ヲ異ニス即チ或者ハ茲ニ謂フ所ノ經濟學總論ヲ以テ純正經濟學ト解ス

報 雜

○卒業證書授與式 七月十六日午後二時三十分ヨリ本校内ニ於テ第十八回卒業證書授與式ヲ舉行セテ先ツ第一級標ニテ卒業生一同著席次ニ來賓續キテ講師校友新聞記者等著席シテ本校專任理事梅博士ハ進ミテ兩陛下御眞影ノ覆帽ヲ奉ケラレ一同最敬禮ヲ行フ次テ校長富井博士式禮ニ立ナテ卒業證書授與式ヲ行フ旨ヲ告ク證書並ニ賞品ノ授與ヲ了リ學事ノ報告ヲ爲スヘシトテ先ツ來賓ニ對シ雨天ニモ拘ハラズ貴臨ヲ辱ウセシヲ謝シ進ミテ本校カ創立ノ極メテ古キニ拘ハラズ卒業生ノ少數ナルハ元來本校ノ方針トシテ頭數ニ重シク置カス專ラ有用ナル人才ヲ養成セシムルヲ期スルヲ結果ニ外ナラザル旨ヲ述ヘ尙ホ本校ノ倍盛大ニ趨キタル次第ニ説キ及テ終ニ卒業生ニ對シ祝詞並ニ今後ノ處世上ノ事ニ關シ詳詳訓戒ヲ與ヘラレ次ニ寺尾博士ハ講師總代トシテ卒業生ニ對スル祝詞ヲ述ヘ且諸君ハ本校ヲ卒業セラレタルヲ以テ未ダ法律學ノ初歩ヲ學ヒ得ズニ止マリ社會上ノ地位未ダ發達シテ時代ニ在ルコト

各其地方ニ退キテ公共ノ事業ニ任テ一般人民ヲ誘掖指導セラレシメテ希望
スル旨ヲ述ヘ尙ホ德義ノ重スヘキ旨ヲ論サレテ次ニ校友間互ニ觀望ヲ厚クシ倍々
來賓ニ對スル挨拶卒業生ニ對スル祝詞ヲ述ヘ校友間互ニ觀望ヲ厚クシ倍々
ノ隆盛ヲ贊助セザルヘカラサル旨ヲ説カレテ次ニ來賓總代加藤高明氏ハ先づ卒
業生ニ對シ其榮譽ヲ祝シ當校ニ取ラルル方針即チ頭數ノ多キヲ望ムスニテ有
用ノ人才ヲ得ントスルニ極メテ善美ナルヲ養ヒ且處世上ノ注意ヲシテ第
一自己ノ業務ヲ重スヘキコト第二堅忍不拔ノ精神ヲ以テ事ニ當リ萬一ニ健伸
ヲ冀フヘカラサル旨ヲ述ヘ日英兩國ニ於ケル處世上ノ異同ヲ説キ我邦ニ於テ
ハ如何ニ世ニ處スヘキカニ及ヒ尙ホ進ミテ諸君ヲ法律適用ノ職ニ當ラセテ
尙ヒ社會ノ事情ヲ斟酌シテ穩當ナル解釋ヲ探ララルト同時ニ品行ヲ慎ミ威
嚴ヲ保テテ法律ノ尊嚴ヲ汚サラントラカシ熱心忠實ナラサルヘカラスニ
説カレ最後ニ卒業生總代伊藤哲英氏ハ答詞ヲ述ヘラレ等ヲ試ヲ行リ庭内ニテ
一同撮影シ別席ニ於テ麥酒等ノ宴應アリタリ尙ホ來賓ニハ芹澤政温土方博士、
野崎啓造長谷川喬加藤高明等ノ諸氏本校役員及ヒ講師ニハ寺内陸軍大臣辻新

次三好退藏、名村泰藏等ノ諸氏及ヒ富井、梅穂積寺尾岡野高木松波、山田等ノ博士、
古賀掛下前田水町若槻秋山中山柿原遠藤岩野岩田志田吾孫子清水等ノ學士校
友ニハ横山佐々木矢野角原山本等ノ諸氏無慮數十名臨席セラレタリ
○擔任講師ノ變更 經濟學總論擔任講師久保無二雄氏ハ差支ノ爲メ辭任セ
ラレ法律學博士金井延氏同學科ヲ擔當セラルルコトト爲リタルニ由リ本號以後
逐次同博士ノ講義ヲ擔當スヘシト申出等ナリ
○自首ノ效力ノ及フ範圍 自首ノ效力ハ犯人カ申立テタル犯罪ノミニ止マ
ルカ將タ其犯人カ申立テタル犯罪以外ニ罪ヲ犯シテ未タ發覺セザルモノアル
トキハ其罪ニモ自首ノ效力ヲ及ボスヘキカ今刑法ノ規定ヲ見ルニ事未タ發覺
セザル云云トアリ隨テ下ノ如キ大審院ノ説明ハ相當ナルヘシ曰ク凡ソ被告ニ
數箇ノ犯罪行爲アリタル場合ニ在テハ被告ノ自首減刑ハ各罪ニ付キ別別ニ之
レヲ定ムルコトヲ要スルヲ以テ被告カ總テノ犯罪ニ付キ減刑ノ利益ヲ主張ス
ルニハ總テノ犯罪ニ付テ自首ヲ爲シタルコトヲ必要トシ被告罪單ニ其中ノ一
罪ノミニ付キ自首ヲ爲シタルトキハ其罪ニ付キテ減刑ヲ爲スヘキハ勿論ナル
モ減刑ノ恩典ハ單ニ其罪ノミニ止マレテテ被告ノ自首セザル他ノ犯罪

校外生規則摘要

一 講義録ヲ分テテ第一學年、第二學年、第三學年ノ三部トス

一 講義録ノ掲載科目左ノ如シ

第一學年 法學通論、憲法、民法(第一編及第二編第六年
イ、刑法(總論)、國際私法、經濟學
第二學年 民法(第三編)、刑法(第一編、第二編、第三編)、刑
法(全論)、民事訴訟法(第一編、第二編)、刑事訴訟法(時政學
第三學年 民法(第二編第七章以下、第四編、第五編)、商法
(第四編第五編)、民事訴訟法(第三編以下)、破産法、行政
法、國際私法

一 講義録ハ毎月六回左ノ期日ニ發行ス

第一學年 五日 二十日 第二學年 十日 廿五日
第三學年 十五日 三十日(但二月ニ限り末日)

一 校外生ハ何時ニテモ入學スルコトヲ得

一 月謝金左ノ如シ

第一學年 金三十圓 第二學年 金四十圓
第三學年 金五十圓 全學年 金一圓

一 月謝ハ郵便爲替、銀行小切手、通運早速便ヲ
以テ東京市麴町區富士見町六丁目十六番地
和佛法律學校會計局宛ニテ送付スヘシ

明治二十二年十二月九日內務省許可
明治三十四年十一月四日第三種郵便物認可

明治三十五年七月十九日印刷
(定價金貳拾錢)

明治三十五年七月二十日發行

東京市牛込區東横町十七番地

編輯者 松田久次郎

發行所 東京市牛込區矢來町三番地

印刷者 小宮山信好

東京市芝區國ノ久保明舟町十一番地

印刷所 金子活版所

東京市麴町區富士見町六丁目十六番地

發行所 司法省 和佛法律學校

(電話番町百七十四番)